

主催者様の声

Applying Neuroscience to Business (脳科学の事業応用)

2019年9月26日(木)～28日(土)まで、資生堂グローバルイノベーションセンター(S/PARK)にて「Applying Neuroscience to Business (脳科学の事業応用)」が開催されました。

Applying Neuroscience to Business では、ビジネス、社会、公衆衛生、および教育といった現実的な問題の解決策として、行動科学や行動経済学、心理学、そして神経科学を応用することに関心のある研究者と企業の方々の対話を促進することを目的とする国際会議として初めて横浜で開催されました。

実行委員長を務められた 株式会社 NTT データ経営研究所 ニューロイノベーションユニット アソシエイトパートナー 茨木 拓也 様にお話を伺いました。

1. 開催地として横浜を選んだ理由を教えてください。

1. 空港からのアクセスが良い
2. 国内からのアクセスも良い
3. 横浜のベイフロントの開放的な雰囲気
4. 資生堂の研究所がみなとみらいだった
5. 周囲に大企業の研究所も多い



2. 「Applying Neuroscience to Business～脳科学の事業応用」は初めての開催ですが、その意義や成果についてお聞かせください。

これまで、企業サイドの脳科学へのニーズと研究者のシーズを相互理解する国際的な機会がなかったため、その第一歩を踏み出したという点で、産学連携・国際連携の大事なきっかけとしての意義と成果があったと思います。交流イベントも多くあったので、海外研究者と日本企業の共同研究や事業立ち上げの議論があちこちで行われていました。



3. 研究者と企業の方々の対話を促進する絶好の機会だったと思いますが、会期を通じて最も印象に残った瞬間や事柄をお聞かせください。

1. ハッカソンと呼ばれる 20 名程度のワークショップでは、ほぼお互い交流がなかった研究者とビジネスパーソンが活発に議論をしていたのが印象的でした。お互いにニーズ・シーズがありながら相手が何をやってるかよく知らなかったということの証左だと思いました。

2. 全員招待のパーティとポスターセッションを行ったのですが、本当に国籍や立場を乗り越えて議論が活発になったのが想像以上で印象的でした。



4. 海外からの会議参加者の方々は横浜に初めていらっしゃる方が多かったと思いますが、街への印象などは耳にされましたか。

綺麗で、たくさん建物があるのに意外とごちゃごちゃしてなくて静かで美しいのが不思議だと言われました。あと 9 月の過ごしやすい気候と、運河やベイサイドの開放的な雰囲気は気に入っていました。初めて来日された方は横浜に滞在しながら、東京に観光に行きたいという声も聴かれましたが、東京へのアクセスの良さも評価されていました。



Applying Neuroscience to Business (脳科学の事業応用);

主催者： University College London、エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

日時： 2019年9月26～28日

場所： 資生堂グローバルイノベーションセンター (S/PARK)

協賛： 応用脳科学コンソーシアム、資生堂

後援： 日本神経科学学会

開催支援： NICT 国際交流プログラム

対象者： 脳・神経科学関連の事業応用・事業開発に関して興味のある企業・研究者等